

「愛知こどもの国 生きものふれあい観察会」を実施しました！

2019年8月25日（日）午後2時から午後4時にかけて、愛知こどもの国（西尾市東幡豆町南越田3）の白鳥池において、「生きものふれあい観察会」を実施しました。

当日は快晴で、定員に対して満員御礼となる50名の参加者の方々に来て頂きました。夏休みということもあり、小学生等の親子連れの方々が多くみられました。西三河南部生態系ネットワーク協議会からは、片山会長はじめ10名のスタッフが参加しました。

片山会長の挨拶により始まった観察会では、カメを専門とする矢部副会長から白鳥池の環境に関する説明がされた後、池に移動して、生きもの採取を行いました。前日に仕掛けたカメワナを引き上げたり、岸辺近くでタモ網を使って生きものを追いかけたりと、小さなお子さん達も目を輝かせながら生きもの採取に励んでいました。この日の採取では、ニホンイシガメ、ミシシippアカミミガメ、ウシガエル、モツゴ、モクズガニ、ヨシノボリ、タイコウチ等、様々な生きものが採取できました。

白鳥池での採取活動後は、東屋（ふくちゃんの家）に移動して、採取した生きもの観察会を行いました。再び矢部副会長から、採取した生きものに関する詳しい説明があり、参加者は説明を聞きながら、画用紙に生きものスケッチを行いました。矢部副会長から、カメのオス・メスの見分け方に関する説明があり、またその途中にウシガエルが逃げ出し、子供たちが追いかける一幕もある等、参加者は楽しみながら理解を深めていた模様でした。

また、今回の活動の中で、外来種であるミシシippアカミミガメが1匹採取されました。白鳥池は、カメ類ではこれまで在来種であるニホンイシガメのみ確認されていた貴重な環境でしたが、今回の活動で初めてアカミミガメの侵入が確認されました。このことも、参加者が、外来種、生物多様性の問題について理解を深めるきっかけとなりました。なお、今回採取したアカミミガメとウシガエルは、適正に駆除することとしました。

暑い中での開催でしたが、参加者・事務局全員が熱中症や水辺の安全対策に留意した結果、無事に観察会を終えることができました。参加者の方からのお声や、アンケート結果から、参加された皆様に、生きものや環境、生物多様性の大切さについて、伝えることができたと考えています。



説明を聞く参加者達



生きもの採取の様子



採取したイシガメを観察する参加者